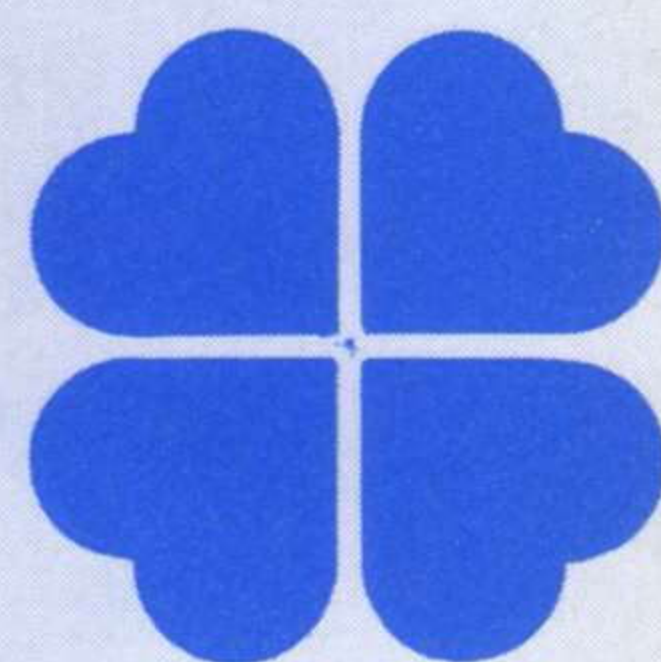
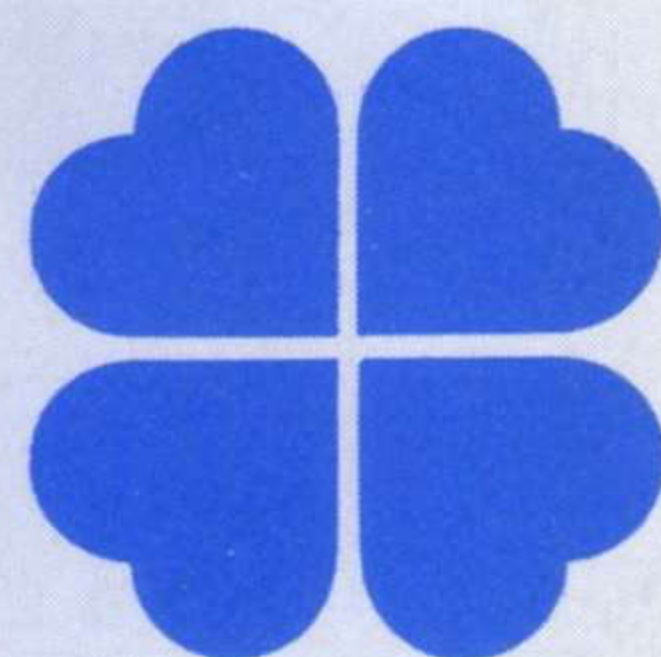
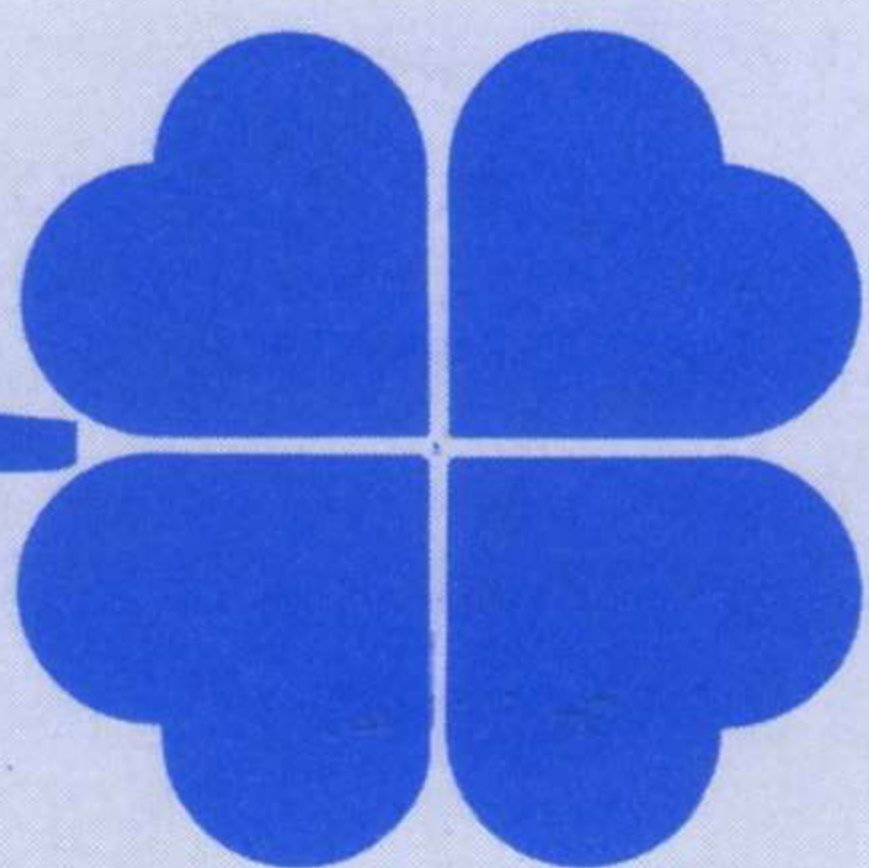




第9回  
大阪四大学  
交歓演奏会



|     |              |
|-----|--------------|
| 日 時 | 1974年6月7日    |
| 開 演 | PM・6：30      |
| 場 所 | 大阪厚生年金会館中ホール |
| 主 催 | 大阪四大学合唱連合    |



## PROGRAM

### —エール交歓—

#### I. 男声合唱組曲「父のいる庭」

大阪府立大学グリークラブ

- |            |        |
|------------|--------|
| 1. 父が庭にいる歌 | 2. 太郎  |
| 3. 早春      | 4. 紀ノ国 |

作詩 津村信夫  
作曲 多田武彦  
指揮 城野仁男

#### II. Negro Spirituals

大阪外国語大学グリークラブ

Wade In De Water      This ol' hammer!  
Deep River              De Animals a-Comin'  
Nobody knows de Trouble I see  
Didn't my Lord Deliver Daniel?

指揮 池田民樹

### —Intermission—

#### III. 草野心平の詩から

大阪大学男声合唱団

- |          |      |
|----------|------|
| 1. 石家荘にて | 2. 天 |
| 3. 金魚    | 4. 雨 |
| 5. さくら散る |      |

作詩 草野心平  
作曲 多田武彦  
指揮 小寺隆

#### IV. 蛙の歌特集

大阪市立大学グリークラブ

かえるの音楽会      青蛙  
五匹のかえる      蛇祭り行進  
帰ろ帰ろ

指揮 宮内泰

#### V. 「魔弾の射手」より 狩人の合唱 「タンホイザー」より 巡礼の合唱 「ファウスト」より 兵士の合唱

合同演奏

指揮 水谷雅男

## 部長あいさつ

### ＜大阪府立大学グリークラブ部長＞

吉田佳弘

覚えていますか。

幼い頃、近所のミヨちゃんと手をつないで、あの「赤とんぼ」の歌を口ずさんだ日のことを。そして、友と肩を組み大声をはりあげてうたったフォークソング。悲しくて泣きたい時も、うれしくてたまらない時も歌いました。

感じるでしょう。——ほら、あなたの胸にじ～ん、ジーン・・・歌はみんなのともだちです。とっても愉快的なやつなのです。

本日は、ようこそいらっしゃいました。我々府立大学グリークラブ員一同あなたを夢の饗宴に御招待いたします。どうか最後まで、たっぷりとお楽しみ下さい。尚、御批判、御指導を賜われれば幸いに思います。

### ＜大阪外国語大学グリークラブ部長＞

樽井一仁

この四大学の演奏会で聞いてもらいたいポイントが2つある。1つは他大学との「競演」であり、もう1つは4大学の「協演」である。前者においては、「外大のわりに、英語の発音がへたね。某大が最高よ。」とか「外大で人数が少ないのに、大きい声出しよるな。」とか4大学の比較演奏の上で、大いに批判してもらいたい。後者においては、3月からのパートリーダーを集めての練習、5月からの合同練習での成果、4大学の協調がどこまでうまくいっているかを聞いてもらいたい。その上で、聴衆の拍手や、ヤジを大いに期待する。

### ＜大阪大学男声合唱団委員長＞

大城直樹

歌う事の歓び、それは仲間が増え互いに知り合うにつれ、加速度的に倍加し、ハーモニーの形成にともない世俗の雑念をぬぐい去り、その心地良い響きに酔いしれる。

この時団員は、心秘そかに思うのである。

楽しからずや！

たとえ、そこに至るまで指揮者の小言を浴びようとも、練習がきつくとも、もはや問題ではないのかもしれない。否その積み重ねが重要なかもしれない。

今夜の阪大男声は年も違えば、過去、経歴も皆異なっている。

しかし、皆、歌、とりわけ男声の響きに魅せられ追い出そうにも追い出せない男声メンである。新参者、10数名のデビューを心暖かく迎えてやって下さい……。

### ＜大阪市立大学グリークラブ部長＞

扇田豊

今宵、この演奏会にお集まりくださった皆様、ほんとうにありがとうございます。

月並な言葉で申しわけないのですが、私達には、これに代わるごあいさつが見つからないのです。と、申しますのは、黙っていても聴衆の方々がお集まりくださるような、そんな力を、私達の演奏は持ちあわせていないことを、いつもひしと感じているからなのです。だから¥300の入場料を頂くのは、全くザンキに耐えません。

けれどもまた、私たちはこう思って気を取り直します。演奏会は演奏だけでできあがっているのではないのだ、と。演奏だけなら、レコードをお聞き頂ければよい、演奏会は、それとは全く異質なものだと思うのです。浪花の四つの大学が集まってステージからも客席からもムンムンと若さを溢れさせ、一つになってつくる今宵のひととき、二つとないこのひとときこそが、実はこの演奏会の目玉なのです。その雰囲気づくりに、私たちがお役にたてば、まこと、嬉しく思います。では、どうぞごゆっくり。

男声合唱組曲「父のいる庭」

昨年、当グリークラブで取り上げた「晩歌」と同様、この詩も津村信夫氏の作品であります。第1曲において、死んだ父の事を冬の訪れと共に思いだし、兄との語らいの中での新しい発見におどろく。2曲目の「太郎」ではもうすぐ生まれようとする自分の子供の事を名前も決めて待っている父親の喜びや夢を歌っています。第三、第四曲では、親子三代にわたる、縦の関係を歌い上げ、小さな継拳というものを感じ、父から子、子から孫へと受けつがれていく何かを感じます。

〈父が庭にいる歌〉

父を喪った冬が  
あの冬の寒さが  
また私に還ってくる  
  
父の書斎を片づけて  
大きな写真を飾った  
兄と二人で父の遺物を  
洋服を分けあったが  
ポケットの紛悦は  
そのままにしておいた

在りし日  
好んで植えた椿の幾株が  
あえなくなった  
心に空虚な部分がある  
いつまでも残っている  
そう云って話す兄の声に  
私ははっとするほどだ  
父の声だ——そっくり  
父の声が話している  
私が驚くと  
兄も驚いて私の顔を見る

木屑と星と枯葉を吹く  
風音がする  
暖炉の中でも鳴っている。  
  
燈がともる  
云い合わせたように  
私達兄弟は庭の方に目をやる  
(そうだいつものこの時刻だった)  
あの年の冬の寒さが  
今 庭の落葉を静かに  
踏んでくる

〈早 春〉

浅い春が  
好きだった——  
死んだ父の口癖の  
そんな季節の訪れが  
私に近頃では早く来る

藪蔭から椿の蕾がさし覗く  
私の膝に女の赤児  
炉の火が  
とろとろ燃えている  
山には雪がまだ消えない  
椿を剪って花瓶にさす

生暖かな——  
ああ これが「生」というものか  
ふっと私の頬に触れる  
夕べの庭にゆう煙  
私の性の拙なさが  
今日もしきりと思われる

## Negro Spirituals

Wade In De Water

This ol' hammer !

Deep River

De Animals a-Comin'

Nobody Knows de Trouble I see

Didn't my Lord Deliver Daniel?

ギラギラと焼けつくような太陽が、広々と横たわる綿花畑の上に輝いていた。綿花を摘み取りながらトムは、この太陽までが自分達に監視の目を光らせているように思えた。

トムは白人に雇われている黒人奴隷である。彼がアメリカにやって来たのは自分の意志によるものではなかった。故郷アフリカでイギリス人に買いとられ帆船に乗せられたのである。彼は甲板の間の鉄格子のついた昇降口の下にとじこめられた。そこでは奴隷達がぎっしり詰め込まれていたもので、夜も昼も横になることはもちろん位置をかえることすらできなかった-----。

アメリカでのトムの生活は、牛や馬と同じ様に夜明けから日没まで働かされ、辛じて生きる程度の生活物資さえ与えられなかった。

しかし自由を奪われたトムの生活にも許された唯一の自由があった。それは歌を歌うことである。現世では到達できぬものの代償を認めさせるためのキリスト教の教え。その思想を消化するために自分達黒人が日常経験できるものへ背景を移しかえて歌を創作したのであった。

トムにとって歌を歌うことは憧れの表現であり、ノスタルジアや逃避にとどまらず反抗の表現であった。

そして囚われの身にある自らの立場になぞらえて、ヨルダン川を越えて、約束の地へと夢を馳せたのである。

## 「草野心平の詩から」

この組曲は慶応義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団の依頼で昭和36年に書かれた。  
全体は5曲からなっている。

第1曲「石家荘にて」は、石家荘の月蛾（遊女）を中心に茫漠とした心の中の荒れはてた平野を連想させる。

第2曲「天」は「五センチの富士」とか「青ブリキ」とかというような草野心平の奇抜な表現をみごとに音楽にしている。

第3曲「金魚」は作曲者が最も心酔していた詩でこの美しい詩の陰影に満ちた表現がこの曲の作曲の動機になったとまで多田武彦に言わせている。

第4曲「雨」は冒頭と結尾にTopのSoloをもつ短い作品である。日本的な情趣に満ちた湯治場の雨の風景を描いている。

終曲「さくら落る」は作曲者自身認めているように詩のイメージと必ずしも一致した曲ではないが、作曲者の経験した嵯峨野の二尊院前の桜並木からいっせいにまいおちる花を見た時のイメージをいかして華麗な終曲となっている。

## 〈石家荘にて〉

茫茫の平野くだりて  
サガレンの  
潮香かぎし女  
月蛾の町にはいり来れり  
白き夜を  
月蛾歌わず  
耳環のみふるえたり  
  
ああ  
十文字愛憎の底にして  
石家荘  
沈みゆくなり

## 〈金 魚〉

あおみどろのなかで  
大琉金はしずかにゆらめく  
とおい地平の支那火事のように  
支那火事が消えるように  
深いあおみどろのなかに沈んでゆく  
  
合歡の木の花がおちる 水のもの  
そのお白粉刷毛に金魚は浮きあがり  
口をつける  
  
かすかに動く花  
金魚は沈む  
輪廓もなく 夢のように  
あおみどろのなかの朱いぼかし  
金と朱とのぼんぼり

## 「蛙の歌特集」

カエルときいてみなさんは、どんなイメージを抱きますか。  
ぬるぬるとして、気持ちの悪い、グロテスクな感じ？ それとも青葉の上に、ちょこっとのっているあまがえる？  
いずれにせよ、私たち人間は、むかしからカエルに対して親しい感情を持ってきたようです。カエルをテーマにした、草野心平氏の多くの詩には、擬人化したカエルの表現がみられます。

音楽においても、ドイツ民謡で、輪唱で歌うかえるの歌や、最近のデュークエイセスの筑波山麓男声合唱団など多くの作品で、カエルが登場しています。というわけで、今年の市大グリーは、6月の四大学で、蛙の歌を集めてみました。

### かえるの音楽会

青 蛙

組曲「蛙」より  
五匹のかえる

蛇 祭 り 行 進

帰 ろ 帰 ろ

### ド イ ツ 民 謡

三 木 露 風 詩 山 田 耕 作 曲

草 野 心 平 詩 多 田 武 彦 曲

草 野 心 平 詩 多 田 武 彦 曲

北 原 白 秋 詩 山 田 耕 作 曲

### 〈蛇 祭 り 行 進〉

ぴるるるるるるっ  
はっはっはっはっ  
ふっふっふっふっ

後足だけで歩きだした数万の蛙。  
篠竹に青大将をつきさしたゲリゲを先頭に。  
渦巻石鹼のうずのように  
だいいりんを描いて行進する。

ぴるるるるるるっ  
はっはっはっはっ  
ふっふっふっふっ

おうい歩調をあわせろうい。  
おういもっとその篠を高くあげろうい。  
どの口からもどの口からも  
螢がしゅっしゅっ流れ出るのだ。

ぴるるるるるるっ  
はっはっはっはっ  
ふっふっふっふっ

まっ暗闇の青たんぼを。  
煙草の輪のようにゆらゆらして。  
螢たちが渦巻のまんまであがってゆく。

ぴるるるるるるっ  
はっはっはっはっ  
ふっふっふっふっ

行進曲は埋葬曲。  
心はあかるいお祭り提灯。  
そよかぜは絹のうすもの。  
星畑は花箋。

ろんど  
ろんど

ぴるるるるるるっ  
はっはっはっはっ  
ふっふっふっふっ

## 歌 劇「魔弾の射手」より

### 「狩人の合唱」

ウ ェ ー バ ー 作曲

古いドイツの民間伝承に「昔の狩人は悪魔の力を借りて7個の弾丸を得、そのうちの6個は如何に速い動物でも百発百中に命中するが、最後の1弾は悪魔の欲するものに命中し、3年以内に自分に代わる射手を探しておかないと自分の魂を悪魔に与えねばならない」というのがあり、このオペラの台本の土台となっている。

1821年に初演されたこのオペラの第三幕の射撃大会の場で「狩ほど楽しいものはない。女神ディアーナも我らの味方だ」と、勇壮な狩のありさまを高らかに歌うのがこの有名な「狩人の合唱」であり、その歌声は森じゅうにこだまするのである。

## 歌劇「タンホイザー」より

### 「巡礼の合唱」

ワ ー グ ナ ー 作曲

1845年初演されたこのオペラは、先哲ウェーバーの影響を受けながらもワーグナーの楽劇への先駆けとも云える作品で、13世紀ミンネゼンガー（恋愛歌人）のタンホイザーと城主の娘、エリザベート姫の悲恋を題材としている。

第三幕、ワルトブルク山麓の場でエリザベート姫がマリアの像の前にひざまずいてタンホイザーの無事を祈っているところへ「巡礼の合唱」が聞こえてくる。このメロディーは序曲の冒頭で用いられており、また吹奏楽でもよく演奏されるので御存知の方も多いであろう。

## 歌劇「ファウスト」より

### 「兵士の合唱」

ゲ ノ ー 作曲

ニコライ・ギャウロフの名演、名唱はまだ記憶に新しいところである。昨年NHKの招きで訪れたイタリア歌劇団が聴衆を魅了した、というよりオペラ旋風を巻き起こした出し物であった。

とはいえ1859年のパリでの初演は失敗に終り、10年後に改作されたものが今日の成功をみるに至ったのであり、今では「カルメン」と並んで最も上演回数の多いオペラのひとつとなった。もちろん台本はゲーテの「ファウスト」に依るが原作とは異なるため、ドイツでは「マルガレーテ」という題名で呼ばれたりもした。

華やかな行進曲や行列の場面をオペラの見せ場におくのはオペラの定石であり、「タンホイザー」の行進曲「アイダの凱旋の場」等はその典型的なものである。

それでは男声大合唱ならではの醍醐味を存分にお楽しみ下さい。



#### 指揮者紹介

#### 水 谷 雅 男

昭和45年 大阪音楽大楽学業

昭和47年 同大学院オペラ科修了

在院中NHKオーディション合格の他、「魔笛」「仮面舞踏会」

「カルメン」等のオペラやバッハのカンタータバリトン独唱に出演

二期会関西支部所属

大阪音楽大学講師

## 云 いた い 放 題

### ★府 大

まあ一皆さん聞いて下さい。

「素晴しき練習環境と大変面倒見のいい先輩方の中で育まれ、我々府大グリーンメンは、本日の四大学演奏会に持前の向上心と練習熱心さを十二分に生かすことができました。」と!? 何を言っちゃるか! バカにすな! わしゃ府大グリーンに4年おるもんじゃが、こんなウソを誰が書いたと! わしゃ情なか! わしの顔には去年の夏合宿に安眠中に押された記念スタンプの跡が、まだ残つとるとよ、ほんなことが!! それにあの面倒見のいい先輩が、わしを《飛行機》とかいうえげつないリンチにかけよって、わしのちっちゃな心臓がまだあのショック<sup>注1</sup>にたち直れず、急な階段をみるといつも足がすくむのはどうしてくれるのけ! それに少し練習中の態度がよかったといって《死刑》というそれこそ殺意まるだしのサッカーボールを無抵抗なわしにけりつける。もうわしゃいやじゃ、こんなきつかクラブ。コンパにしたって(酒が)好きな奴には全然すすめず、嫌いなわしに「まあ1つ」とすすめる。おかげでわしゃ、唱いたくないspring songを力一杯唱えた、いや唱わされた(コンパの帰り何度、心齋橋筋で恥をかいたか! もういやっいやっいやっ!! わしゃ大学に入る前は真面目が服を着て歩いていると言われたくらいのぼんぼんやったのに、今じゃ悲しき被刑者。ピンク軍や環状線外回り組や高野線下り組の毒牙にかからないように日夜おびえにおびえてる情ない人間! ほらこう言ってるわしに後輩が近寄って来よる。「参謀、こんなとこにいて、もう1人えじきが見つかりました。参謀が来てくれな飛行機できまへんがな。」「ほんまか、早よ行こ! どこにいよんね。あっ皆さん、小用が出来ましたので、ここらへんでほなさいなら。」

ピンク軍参謀 S・F

注1: 飛行機とは、四肢を四人で持ち合い、うつ伏せにして滑空する如きものである。

### ★外 大

「オイ! 今日のゼミ、お前の担当でしんどかったやろ。まあ無事に済んだことやし、上六で一パイやろうや。」

「あかんね。今日はオレ、クラブやからなあ。」

「グリーンか? まだあんなんやってんのか。はやめてしまえや。」

「そやけどなあ、オレ、ロシア語の方が全然あかんやろ。せめてグリーンだけはまともに卒業したいねん。なんせオレも、もう幹部やからなあ、サボったら後輩にしめしがつかんやろ。」

「オマエも一人前の口きくようになりやがって、なんやしらんけど、えらい所帯じみたこと言うやないか。まあ今日はしゃあないわ。ガンバッテ来いよ。バイバイ」

「ほんならあしたな。一時間目の会話出てくるやろ。バイバイ」

こうして友人と別れた私は、本日の練習場となっているE6教室へと急ぐのである。

最近、グリーンキチガイが減ったようだ。「ボクラの頃は50人位でね。そりゃ歌キチガイばかりだったよ。」というOB諸氏の声を聞くにつけさびしく思う。

でも私は自他共に認める歌キチガイ。グリークラブ卒業が望み。

どうも今日は集まりが悪そうだ-----

## ★阪 大

健ちゃん、お元気ですか。

時の立つのは早いものですね。入学当時の初々しい気分もいつの間にかどこかへいってしまい、ただ何となく毎日が過ぎ去り、到頭、一年が立ってしまいました。合唱、勉強、麻雀、そして女の子と結局どれにも打ち込む事ができず毎日毎日が満たされないまま明日からはと思い、その繰り返しの一年間であった様な気がします。君は阪大男声で頑張っている事でしょう。皆で合唱した時のハーモニーの美しさに自分自身でうっとりして、合唱とはこんなに素晴らしいものかと思ってみても自分一人で歌ってみるとダミ声で音程が無茶苦茶な自分が恥ずかしくなり自分はダメだなあと思うのです。そのくせもっとうまくなろうという意気込みもなく、ぼくも一年間グリークラブに所属してきました。君が生き生きとした顔で口号んでいるのを見ると羨ましくなります。この素晴らしいはずの青春時代に何の情熱も無く顔だけはいつもにこにこしてしまうのは淋しい事です。今年こそはみだりに悲観せず（楽観もせず）精一杯合唱に打ち込みたいと考えています。

それから今年の四大学には、君も知っている明子さんがぜひ聞きに行きたいと言っているので二人で行きます。素晴らしいステージが見れるよう期待しています。

では今日はこれで失礼します。

6月7日 名古屋にて

藤 川 雅 男

## ★市 大

5月の連休も終り大学生活に慣れ、同時に暇をもて余すようになってきた昨年の今頃、小生はひつこいひつこい先輩に引っぱられ、コンパや女子大との合ハイに誘惑され、ついに市大グリーに入部しました。あれからはや一年、小生がグリーで教わったのは、発声練習ではなく、麻雀の打ち方であり酒の飲み方でありました。ああ、グリーとは、純心な美青年をかくも軟弱な人間に変身させるのか！そして無情にも一年は去り、新入部員も増え始め、このままでは彼らに追い抜かれはしないかとひそかに心配し、背中に火のついた思いで練習に励む毎日です。思い出せば、昨年初めて四大学の舞台に立ちエール交歓をした時は、足がガタガタ震え顔は真赤になり、我に帰った時は学生歌が終っている有様でした。定演では目頭が熱くなるほど詩に溶け絶叫した小生も、今は数少ないベースメンの一人として本番にチョンボをしないようにと慎重に舞台に立つつもりですが、持ち前の大声もこういう時には出しにくいものです。早く合同ステージで声をはりあげたいですなあ。そしてコンパ！大声！コンパ！合唱？コンパ！、この時こそ小生はじめ市大グリーメンの本番ステージかも-----

## 大阪四大学のプロフィール

昭和37年1月、環境条件の類似した、地理的に近距離にあるこの大阪の四大学が互いの交流を深めようという目的で、交歓演奏会を持つ事が決定されました。

第1回演奏会は、同年6月に毎日ホールで、第2回は翌年11月にサンケイホールで開かれました。しかし、この2回の演奏会では、その目的であった交流がなされず、また四大学の本質的な在り方の追求が欠けていたため、第3回演奏会は、中断せざるを得なくなりました。

その後、39年秋より、四大学の在り方、運営方針等に関する討論がなされました。その結果41年秋に「四大学は互いにその交流を深め、互いの合唱レベルの向上を図り、ひいては大阪府の合唱レベルの向上に寄与す」という目的が設定され、大阪四大学合唱連合規約が作られました。そして、運営面においては各大学委員20名からなる委員会が設置され、現在行なわれているような合議制、職務分担制が施されました。

このような方針に基づき、第3回演奏会が42年6月大阪大学中之島講堂で、つづいて翌年6月第4回演奏会が、大阪府立青少年会館文化ホールにおいて開かれました。その間、互いの理解を深めるため、全団員によるジェネラルミーティング、演奏会後の合評会やゲネプロ等が行なわれました。

しかし、44年、大学紛争による演奏会中止は、再び活動の形式主義化、四大学の目的の形骸化に対する批判の生起する契機となりました。

その後、45年から再び演奏会は始まり今日、こうして、第9回目を迎えることになりこれからも私達四大学の交流という、すばらしい目的、それだけに、難かしいと思われる、目的に向って、邁進してゆくつもりです。

### Think Human

心のままに歩いてみよう

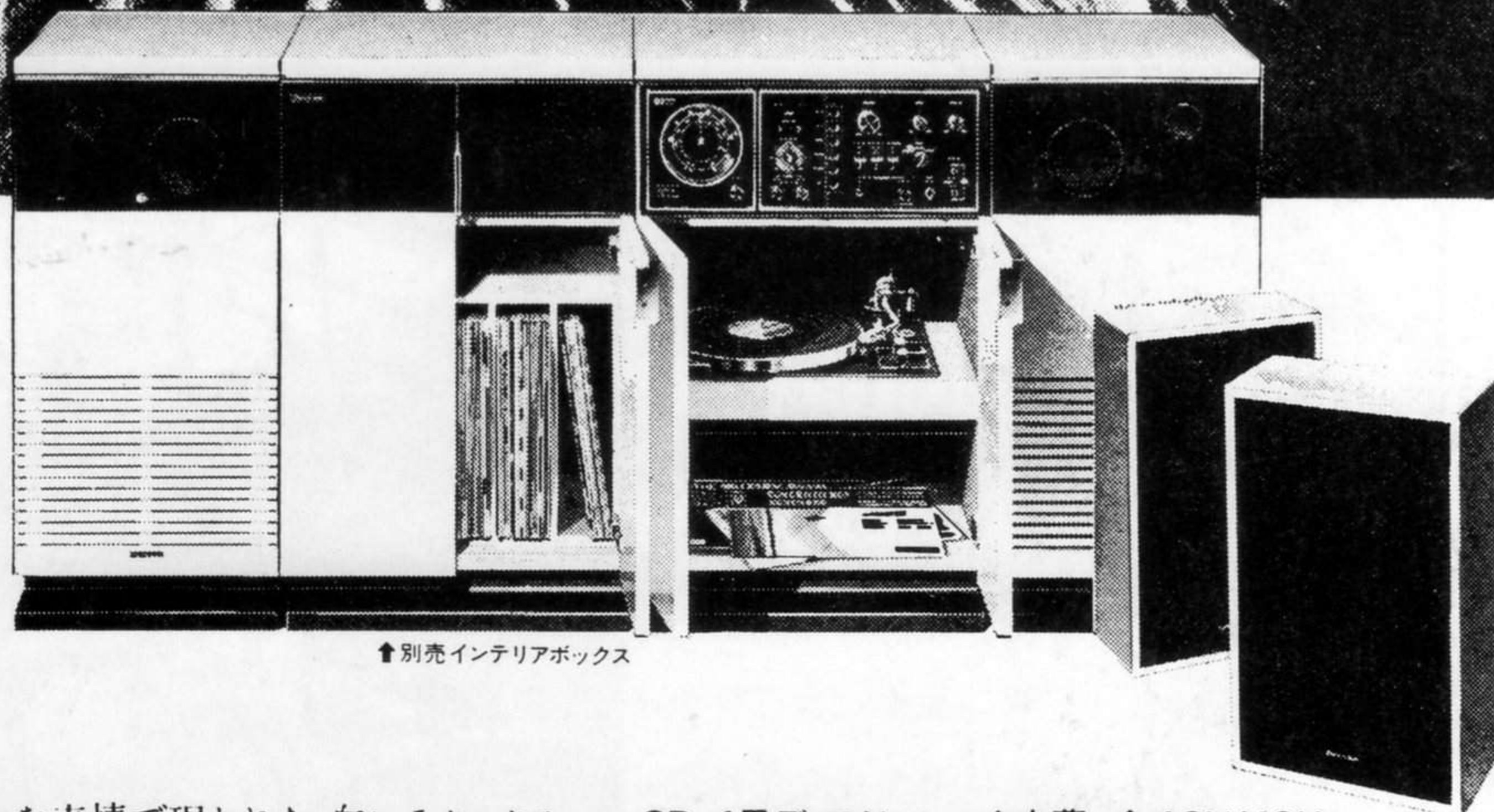


### 住友生命保険相互会社

大阪市北区中之島 2-16

Tel (06) 231-8401

# 白いテクニクス。



↑別売インテリアボックス

爽やかな表情で現われた、白いテクニクス。  
 今日からは、部屋の中でこれだな。  
 友だちと、ビバルディを通して聴いて。  
 白いテクニクスの音楽が、部屋の中を、  
 時間の中を流れて。ほんとに、部屋に似合う  
 こんなステレオがはやく欲しかった。

## CD-4用ディモジュレータ内蔵。全4CHがOK

テクニクスは4CHの本格派CD-4方式がメインモード。見事に4つの音をディスクリット(分離)するCD-4用ディモジュレータ(復調器)を内蔵した本格設計!しかも独自のAFDコントロールを採用。RM4CHレコードはもちろん、すべての4CH方式をこなします。

## 画期的なメカを数多く採用。サウンドプレイもたのしめます

●同じレコードを自動的に繰返し聴けるメモリビート採用のフルオートプレーヤー●OCL回路でミュージックパワー64W(I.H.F)●たのしいマイクミキシング機能も装備。



# Technics CD-4 SYSTEM

SC-2200 DX(H) デラックス標準価格250,000円(ディモジュレータ内蔵・4CH針・リアスピーカ2本つき)

●別売インテリアボックス SH-2201(H) 標準価格30,000円●ほかにローズウッド(P)もあります。

※ 社会と共に歩む技術の **ソニー**